

THE SAISON FOUNDATION

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス ヴィジティング・フェローによるパブリック・トーク

公益財団法人セゾン文化財団では、2017年度の「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー」の一環として、シンガポール出身のアーティスト、パフォーマンス・メーカーのチョイ・カファイをお迎えし、パブリック・トークを開催いたします。

参加者の方々とともに議論を深めていきたいと考えておりますので、皆様お誘いあわせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。



(細江英公の写真集『鎌鼬』の撮影で、土方巽に出会った人)


パブリック・トーク:「Unbearable Darkness Research」

■ 開催日時 2017年8月4日(金) 19:00-20:30 *参加費無料

*約1.5時間のトークセッションとQ&Aの後、懇談会あり

■ 開催場所 森下スタジオ 東京都江東区森下3-5-6

■ 主催 公益財団法人セゾン文化財団

■ 助成  平成29年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

公益財団法人 **セゾン文化財団**

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目12番7号 京橋山本ビル4階 TEL 03-3535-5566 / FAX 03-3535-5565

「Unbearable Darkness Research」 概要

チョイ・カファイは「Unbearable Darkness」と題し、舞踏に対する日本と海外の見地を比較するダンス・ドキュメンタリー・パフォーマンス・プロジェクトに取り組み、舞踏のレガシー、現代における舞踏の重要性や将来の可能性についてリサーチしています。舞踏の世界と対峙し、その原点について思索する試みです。

本パブリック・トークでは、2016年から始めた日本とヨーロッパでのフィールド・リサーチのドキュメンタリーについて、次の3つのリサーチ・フィールドからお話いただく予定です。



(細江英公の写真集『鎌鼬』について語る人々)

- 「土方の魂を探る」: 土方巽が生まれた東北地方の霊媒師、イタコの口寄せによる土方巽の語り
- 「身体を切り裂く風」: 細江英公の写真集『鎌鼬』の舞台となった秋田県羽後町田代で、土方巽と細江英公の撮影を目撃した当時の子どもたちの証言
- 「国際的な舞踏の伝道者」: 日本の社会・政治的文脈から越境、発展したヨーロッパの舞踏の方法論



チョイ・カファイ

■プロフィール

シンガポール生まれ。英国、Royal College of Art でデザイン・インタラクシオンを専攻し、修士号を取得。主な作品に、アジアの 88 名の振付家やダンサーを取り上げた『Soft Machine』や、人間の筋肉の記憶を電気信号に変換してピナ・バウシュや土方巽の動きの再現を試みたパフォーマンス作品『Notion: Dance Fiction』がある。

日本では、Kyoto Experiment や TPAM in 横浜、フェスティバル/トーキョー、東京都現代美術館等で作品を発表。また、Singapore Arts Festival (2012)、Tanz Im August (2013、2015)、ImPulsTanz Festival Vienna (2015)等、世界の有数のフェスティバルで作品を発表している。

■滞在期間 2017年7月18日(日)-8月20日(日) 予定

■滞在目的 「Unbearable Darkness: 日本国内外での舞踏のレガシーと重要性」

舞踏のレガシー、現代における重要性や今後の可能性を探ることを目的とし、土方巽、東北、シャーマニズムをテーマにしたリサーチを行う。

■申込方法 森下スタジオまで Email または電話でお申し込みください。

Email: KaFai2017@saizon.or.jp

* 件名を、「8月4日パブリック・トーク申込み」とし、本文に ①お名前 ②職業③参加人数④連絡先⑤このイベントをどのようにお知りになったかをご記入ください。

電話番号: 03-5624-5951(森下スタジオ)

